





審査結果報告書

令和
平成 2 年 / 月 8 日

主査 氏名 高相 晶士 

副査 氏名 山下 拓 

副査 氏名 狩野 有作 

副査 氏名 内田 健太郎 

1. 申請者氏名 : 森山 和の

2. 論文テーマ :

Differences in pluripotency of jawbone- and iliac
bone-derived mesenchymal cells
(顎骨由来および腸骨由来間葉系細胞の多分化能の差異に
ついて)

3. 論文審査結果 :

唇顎口蓋裂治療において、正常な咬合を得るため、顎列部の骨欠損に対して、骨移植を繰り返す治療が行われる。しかし、同じ間葉系細胞においても由来組織によって分化能に差異があるとされてきたが、その原因は発生経路の違いによるものと考えられてきた。本研究では腸骨と顎骨由来間葉系細胞の生物学的特徴を明らかとし、採取部位の違いによる、骨、脂肪、軟骨分化誘導の差異を検討したものである。その結果、骨芽細胞への分化誘導は採取部位で差を認めた。脂肪形成能は腸骨由来が最も強く、次いで下顎骨由来、上顎骨由来であり、歯槽骨は生じなかった。軟骨形成能は腸骨由来が最も強く、次いで歯槽骨由来、上顎骨由来＝下顎骨由来であった。ただし歯槽骨由来は軟骨形成を認める群と認めない群に分かれた。以上の結果から腸骨由来間葉系細胞と顎骨由来間葉系細胞の採取部位による分化誘導能には差があると結論した。本研究は医学博士の学位を授与するに値する研究であると審査委員会一致で結論した。